

女性参政権運動史を ふり返る

19世紀から20世紀にかけて、世界各地で女性参政権運動が展開されました。女性参政権運動は、政治的権利を持たない女性が、政治の場に自らの声を反映させねばならない点で、大きなジレンマを伴う運動です。このジレンマを前にして、各国の女性たちは、ロビー活動、啓蒙活動、プロパガンダなど、様々な手段・戦略に訴えました。また、女性参政権への同意・支持を得る上で、効果的な論理・理念を打ち出そうとしました。

本シンポジウムでは、英米日の比較史の観点から、女性参政権を実現するための様々な試みについて考察します。今日においても、女性が自らの声を社会や政治の場に反映させることは容易ではありません。こうした今日の状況もふまえながら、女性参政権運動史をふり返ってみましょう。

2021

10/31日

13:30~17:00 (開場13:00)

参加費無料(事前申込制・定員80名)

北海道大学

学術交流会館・小講堂

札幌市北区北8条西5丁目



1923年7月 男女平等大会75周年記念大会(ニューヨーク州セネカ・フォールズにて) 市川房枝記念会女性と政治センター所蔵

講演

「明るく、自由で、楽しげ」に
——イギリス女性参政権運動
のプロパガンダ

佐藤 蘭香 (さとう まゆか)

麗澤大学外国語学部准教授

アメリカの女性参政権運動
とフェミニズム
——ジェンダー、人種、帝国を
めぐる論争から

栗原 涼子 (くりはら りょうこ)

早稲田大学ほか非常勤講師・元東海大学教授

婦選獲得同盟にみる
日本の女性参政権運動
の運動戦略
——運動の拡大と連帯のために

井上 直子 (いのうえ なおこ)

帝京大学ほか非常勤講師

コメンテーター

広瀬 玲子 (ひろせ れいこ) 北海道情報大学情報メディア学部教授

司会

水溜 真由美 (みづたまり まゆみ) 北海道大学大学院文学研究院教授

応用倫理・応用哲学研究教育センター運営委員

シンポジウムの参加には申し込みが必要です。参加申し込みは、応用倫理・応用哲学研究教育センターのHPをご確認ください。

※新型コロナウイルスの感染状況により、シンポジウムを無観客あるいはオンラインでの実施に変更する可能性があります。
※主催者側では、感染症対策として、アルコール消毒液による座席の消毒や、会場内の換気を徹底いたします。



来場には公共交通機関をご利用ください。



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



お問い合わせ

Email: caep@let.hokudai.ac.jp

Tel: 011-706-4088 (平日 9:15-16:00)

URL: <http://caep-hu.sakura.ne.jp/>

Twitter: @caep_hu

*** 講演要旨 ***

「明るく、自由で、楽しげ」に ——イギリス女性参政権運動の プロパガンダ

佐藤繭香

専門は、イギリス近現代ジェンダー史、女性参政権運動史。単著書に『女性参政権運動とプロパガンダ——エドワード朝の視覚的表象と女性像』（彩流社、2017年）。共編著に、『欲ばりな女たち——近現代イギリス女性史論集』（彩流社、2013年）。共訳書に、『お買い物は楽しむため——近現代イギリスの消費文化とジェンダー』（彩流社、2020年）など。

本発表は、郵便物への放火や窓ガラスの破壊などの「戦闘的な」活動で知られる20世紀初めのイギリス女性参政権運動がいかにして一大政治運動となるまでに成長したのかについて女性社会政治同盟（1903年設立）の「戦闘的な」活動と並行して行われた行進、バザー、演劇などの視覚的な宣伝活動の果たした役割を通してみていきます。19世紀には大衆の注目を集められなかった運動は、20世紀においては視覚的な宣伝活動を通して、女性たちを連帯させ、結束を深めました。同時に、人々が共感できる、参政権を得る資格のある「女性」像を提示し、大衆を魅きつけた女性参政権組織の戦略に注目します。

アメリカの女性参政権運動と フェミニズム ——ジェンダー、人種、帝国を めぐる論争から

栗原涼子

専門は、アメリカのフェミニズム運動史。単著書に『アメリカのフェミニズム運動史——女性参政権から平等憲法修正条項へ』（彩流社、2018年）、『アメリカの第一波フェミニズム運動史』（ドメス出版、2009年）、『日米女性参政権運動史』（信山社、2001年）、『アメリカの女性参政権運動史』（武蔵野書房、1993年）。共著書に『越境する1960年代——米国、日本、西欧の国際比較』（彩流社、2012年）、『アメリカ・ジェンダー史研究入門』（青木書店、2010年）、『シリーズ・アメリカ研究の越境 第4巻「個人と国家のあいだ」家族・団体・運動』』（ミネルヴァ書房、2007年）、『アメリカを知る技法』（宝文堂、2003年）、『アメリカ研究とジェンダー』（世界思想社、1997年）など。

本報告では、南北戦争後の再建期のアフリカ系アメリカ人男性への参政権付与時の全国女性参政権協会（NWSA 1869年にアメリカ女性参政権協会と同時に設立）による、アングロサクソン白人優位主義、第一次世界大戦期における、全米女性参政権協会（NAWSA 1890年設立）と全国女性党（NWP 1916年NAWSAより独立）の思想的、戦略的な対立などを当時の政治や法との関連で考察します。加えて、1848年のセネカ・フォールズの女性の権利大会を女性参政権運動の起源とし、1920年の女性参政権獲得を運動の終結とする定説を再考し、1920年代以降の平等憲法修正条項（ERA）論争などにつらなる、フェミニズム運動の連続性についても言及します。

婦選獲得同盟にみる日本の女性 参政権運動の運動戦略 ——運動の拡大と連帯のために

井上直子

専門は、日本近代女性史・ジェンダー史。近年の論文に「婦選獲得同盟誌友会の組織化とその役割——満州事変以降における婦選運動の担い手をめぐって」『総合女性史研究』（37号、2020年3月）、「交錯する「公民」の境界——1930年前後における「婦人公民権」問題をめぐって」『ヒストリア』（272号、2019年2月）、「婦選獲得同盟東京支部にみる婦選運動の転換点」『人民の歴史学』（218号、2018年12月）など。

本発表は、日本の女性参政権運動をリードした婦選獲得同盟の運動手法を、幹部、そして地域社会での構想と実践に即して検討するものです。婦選獲得同盟幹部の市川房枝らは、議会への運動とともに、女性参政権の啓発と運動の担い手拡大を進めました。その際、参照したのは先行するアメリカやイギリスの女性参政権運動でした。運動手法のみならず、機関誌上で欧米の女性参政権運動史を物語形式で紹介しています。こうした幹部の姿勢とともに、会員が各地でいかに女性参政権を捉え返し地域社会で運動を展開したか、ひもといていきます。

*** コメンテーター ***

広瀬玲子

専門は、日本近代女性史。主著に科学研究費補助金研究成果報告書『帝国の少女の植民地経験——京城第一高等女学校を中心に』2012年、『帝国に生きた少女たち——京城第一公立高等女学校生の植民地経験』（大月書店、2019年）。共著に『北の命を抱きしめて』（ドメス出版、2006年）、『東アジアの国民国家形成とジェンダー』（青木書店、2007年）、『北海道社会とジェンダー——労働・教育・福祉・DV・セクハラの実態を問う』（明石書店、2013年）、『제국과 식민지의 주변인 제조일본인의 역사적 전개』（보고사、2014年）、『帝国日本の移動と動員』（大阪大学出版会、2018年）など。

本発表は、日本の女性参政権運動をリードした婦選獲得同盟の運動手法を、幹部、そして地域社会での構想と実践に即して検討するものです。婦選獲得同盟幹部の市川房枝らは、議会への運動とともに、女性参政権の啓発と運動の担い手拡大を進めました。その際、参照したのは先行するアメリカやイギリスの女性参政権運動でした。運動手法のみならず、機関誌上で欧米の女性参政権運動史を物語形式で紹介しています。こうした幹部の姿勢とともに、会員が各地でいかに女性参政権を捉え返し地域社会で運動を展開したか、ひもといていきます。

2021.10.31



フェスタ
国立大学2021

女性参政権運動史をふり返る



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



お問い合わせ／応用倫理・応用哲学研究教育センター事務局
Email: caep@let.hokudai.ac.jp Tel: 011-706-4088(平日 9:15-16:00)
URL: http://caep-hu.sakura.ne.jp/ Twitter: @caep_hu